

幼稚園教育実習 I 指導における全教員による取り組み

—アンケートから見える教育実習指導の成果と課題—

Initiatives by all teachers in teaching Kindergarten Teaching Practice I

横峯 孝昭, 丸田 愛子, 中村 礼香, 本田 和也, 藤川 和也,
生田 和也, 松下 茉莉香, 渡邊 光浩, 松崎 康弘

Takaaki Yokomine, Aiko Maruta, Ayaka Nakamura, Kazuya Honda, Kazunari Fujikawa, Kazuya Ikuta,
Marika Matzusita, Mitsuhiro Watanabe, Yasuhiro Matzuzaki

鹿児島女子短期大学

幼稚園教育実習 I 指導の体制について、これまで実習担当者とホーム指導教員のみで行っていたものを、令和元年度は児童教育学科所属の全教員で分担して指導することを試みた。本稿は、個々の学生の実習事後指導におけるアンケートの結果、また指導を行った教員のアンケート内容を分析し、今後の実習指導の在り方について、検討を行った。養成校として学生が実習で何を学び、何を課題として持ち帰ってくるかを基に実習指導として教員が何を指導していくのか、全教員による共通理解を図り行っていく必要性が示唆された。

Keywords : Teaching Practice in Kindergarten, Teaching Plans, Research Teaching Materials, Understanding of Children

キーワード : 幼稚園教育実習, 教材研究, 指導案, 幼児理解

1. はじめに

鹿児島女子短期大学（以下、本学）では、児童教育学科に小幼保コース、幼保コースの2コースがある。「幼稚園教諭二種免許状」を取得するためには1年次後期に行われる「幼稚園教育実習 I 指導」を受講するとともに、1年次後期に附属幼稚園において「幼稚園教育実習 I」2週間、2年次前期に、「幼稚園教育実習 II 指導」（幼保コース）を受講して外部幼稚園において「幼稚園教育実習 II」2週間（幼保コース）、もしくは「小学校教育実習指導」を受講して小学校において「小学校実習」2週間（小幼保コース）、計4週間の教育実習を行う必要がある。その中で「幼稚園教育実習 I」は、学生が入学して初めて行う実習であり、以後の実習や学生生活に大きな影響を与えることを鑑み、本学では別名「基本実習」という位置づけとなっている。附属幼稚園における実習であることから、実習前後の実習連絡会のみならず、事前指導等においても実習先の協力を得ており、幼稚園の先生方と密に連携を図ることが可能である。しかし、本学側の事前指導・実習期間・事後指導については、ややもすれば実習担当者・指導教員が学生と関わり、指導していくという一面があり、全教員で連携して実習指導を行っていく体制ではなかった。近年実習指導に関しては、全教員が関わっていくことが推奨されている。本学もその流れに沿って、令和2年度は全教員が実習指導に入ることにした。そうすることで、教材研究、指導案指

導等について学生と関わりをもって、一人一人の学生が実習に対して抱く不安や自分自身の課題・改善点を意識できるのではないかと考えた。本稿では、養成校としての実習の一例として、今回どのような体制で指導を行ったのかを報告する。また、その指導体制で、学生にどのような意識や姿が見られたか、事後指導の折に取ったアンケートによって、その現状や課題について分析した。さらに、実習指導にかかわった教員を対象とした事後アンケートについても分析している。

これらを基にして、事前指導の在り方や課題について検討し、より実践に役立つ実習指導を行うための礎にすることを目的としている。

2. 幼稚園教育実習の概要

2.1 幼稚園教育実習 I の目的（本学「幼稚園教育実習の手引き¹⁾」より抜粋）

1 幼稚園教諭の体験的学習

第一に幼稚園という教育機関について、第二は幼児について、第三は幼稚園教諭としての活動や職務について、理解を深めることが目標となる。

2 保育技術の実践的修得

観察力を養い、指導案の作成や保育を担当することで、教育を実践する能力や具体的な指導技術を身に付ける。

3 保育観、教育観、子ども観の確立

幼稚園教育のあるべき姿を学び、育てたい幼児像を思い描き、教師としての自覚を持つようになる。

4 社会人としての自立を目指す

職務の遂行にかかわる処理能力や態度を養い、社会人としてふさわしい行動がとれるようになる。

このように、幼稚園教育実習 I においては、まず、学んだ知識や技術を現場で確認し、実践することである。時として、「理論と実践は異なる」という印象を持つこともあるかもしれないが、その原因は、理論そのものにある場合や、理論の誤った解釈や適用なども少なくない。大切なことは、目の前の幼児と教師たちの様子を、曇りのない目でしっかりと観察し、幼児教育の現場のありのままの姿を心に焼き付けることである。そこから、何をどう考えていくのか、改めて学習し直すきっかけをつかむことを目的としている。

2.2 実習園

附属 A 幼稚園 (鹿児島県鹿児島市)

- ・ 3 歳児 3 クラス
- ・ 4 歳児 3 クラス
- ・ 5 歳児 2 クラス 計 8 クラス

附属 B 幼稚園 (鹿児島県鹿児島市)

- ・ 3 歳児 2 クラス
- ・ 4 歳児 2 クラス
- ・ 5 歳児 2 クラス 計 6 クラス

附属 C 幼稚園 (鹿児島県鹿児島市)

- ・ 2 歳児 1 クラス
- ・ 3 歳児 2 クラス
- ・ 4 歳児 3 クラス
- ・ 5 歳児 2 クラス 計 8 クラス

2.3 対象学生

児童教育課学科 1 年生 191 名

- ・ 前期 (1, 2, 3 組) 82 名
- ・ 後期 (4・5・6 組) 109 名

2.4 実習期間と園における配属組

- ・ 前期: 令和元年 11 月 5 日 (火) ~ 11 月 18 日 (月) 1・2・3 組
- ・ 後期: 令和元年 11 月 26 日 (火) ~ 12 月 9 日 (火) 4・5・6 組

幼稚園の各クラスに幼稚園の担任の勤務年数に応じて 2 ~ 7 名学生を配属

3. 実習指導の具体的内容

表 1 は、児童教育学科の令和元年度「幼稚園教育実習 I

指導」授業計画である。この計画表には載っていないものとして、1 年前期 (6 月) における実習先への観察・講話が 2 コマ分、キャリア教育研修の一環として行われている。また、表 2 は教材研究における各配当教員 (本学) と学生の教材研究、指導案作成指を個別に指導してもらう指導期間を示した工程表である。以前の授業外の指導、担当保育の教材研究指導、指導案作成指導については、学科のホーム担当教員が、自分の担当している学生の指導を行うことが通例であった。しかしこれでは、1 クラスあたり 15 名 ~ 20 名の学生の指導を行わなければならないという問題点があった。この部分を、児童教育学科全教員で分担することにより、4 ~ 10 名の学生の指導を行えるようにし、より個に対応した指導ができるようにした点が、今年元年度より改定した指導内容である。

4. 幼稚園教育実習 I 事後アンケート調査の結果と

表 1 令和元年度 幼稚園教育実習 I 指導

期 日	時限	クラス	内 容
8月8日	3限	全クラス	幼稚園実習の指導ガイダンス 幼稚園教育実習の意義と目的 夏季休業中の課題について
9月20日	1, 2限	全クラス	オリエンテーション (夏季休業課題の確認、実習にかかる諸注意事項、指導案にかかること)
9月26日 オリエンテーション I	4, 5限	全クラス 実習園別	実習園でのクラス別 オリエンテーション (保育案提示)
10月10日 オリエンテーション II (前期実習)	4, 5限	前期 (1, 2, 3組) 実習園別	実習園でのクラス別 オリエンテーション (保育案 4 案 + 試作提示)
10月18日	5限	全クラス 実習園別	歌・体操・絵画制作等の 指導
10月25日 オリエンテーション II (後期実習)	4, 5限	後期 (4, 5, 6組) 実習園別	実習園でのクラス別 オリエンテーション (保育案 4 案 + 試作提示)
11月22日	5限	前期	前期日程事後指導 (講義)
12月13日	3限	後期	後期日程事後指導 (講義)

分析

令和元年「幼稚園教育実習 I 指導」の最終日に事後指導として、学生に表 3 の項目内容のアンケートを実施した。アンケートの項目については奈良佐保短期大学を参考にさせていただいた²⁾。調査結果については表 4 に示す。

表 4. 1 「実習中に幼稚園担任や園長先生から指導を受けた内容」については、多い順に「援助・言葉かけ」82.7%、「子どもとの関わりについて」49.2%、「部分保育 (手遊びや、歌唱指導、絵本読み聞かせ等)」46.1%、「環境構成」45.5% と答えている。また、表 4. 2 「実習終了時に最も達成されなかった課題」については、多い順に「手遊びのレポーターが少ない」51.3%、「トラブル場面での指導」47.1%、「全体を見ることができない」47.1%、「言葉かけがうまくいかない」38.2%、「内面を理解した援助」31.4% と

答えていて、5つの項目を課題として持ち帰ったことが伺える。一方で表4.3「実習でできたこと」として8割の学生ができたと答えた項目が、「子どもの名前を全部覚えることができた」、「一日の保育の流れをつかむことができた」、「一日の先生の動きが把握できた」、「積極的に子どもと関わることができた」、「子どもたちと話をする際、丁寧に優しい言葉使いに気を付けることができた」、「実習生としてふさわしい実習態度ができた」、「先生としての役割を体験することができた」、「幼稚園教諭という仕事のやりがいを得ることができた」、「幼稚園教諭の職務や役割について理解を深めることができた」と17項目中9項目であった。

また、これらの項目に答えた後に表4.6「今回の実習で難しいと感じたこと」を記述させたところ「全体把握の仕方」、「言葉かけに関すること」「観察で見ているも実際に自分がするとなったときに思うようにできない難しさ」という保育の内容に関するものと、「語彙力のなさ」、「ピアノ導入の難しさ」などの普段からの努力によって獲得していくものに大きく分けることができた。

本学における幼稚園教育実習 I は、一番初めの実習であるものの、2週間を通しての観察実習と、参加実習、担当保育と実習のあらゆるものを経験する場をいただいている。その中で学生が何を習得し、何を課題として持ち帰っているのかを教員側も把握し、その後続く実習への橋渡しを行っていく必要がある。表4.3で8割の学生が達成できたことは、ある意味保育者・教育者という職種におけるの入り口で当たり前のことであろうが、それが達成できていたことから、この仕事に向き合う準備ができたと筆者らは考える。また、表4.2の課題として持ち帰った内容について、手遊び等の技術に関しては、日ごろから保育に関することに興味を持つ、保育雑誌に目を通す、専門の教員に相談する、園へのボランティア等に参加しその園で使われている手遊び等を習得するといった、主体的に自分から保育に関わろうという意識が必要となってくる。これは、表4.6の「語彙力」や「ピアノ」に関しても同様であろう。学生が将来を見据えて、実習ごとに自分の立ち位置を確認しながら、保育士・教育者として懸命に取り組む意識が求められる。また、教員も日常の学生生活の中で、気づきを促すことができる必要がある。

また、指導案指導を通して学生が抱えている問題点として、子どもの実態がつかめないという点が挙げられる。それが、言葉がけや援助がうまくいかなかったと学生が感じた点であろう。これも今後の実習において、子どもたちと積極的に関わっていく中で理解していくことに加え、日々の講義等を通じてしっかりと理論を理解していく必要がある。

表4.7「実習を通して本学の指導について要望することがあれば書きましょう」については、2パターンに大きく分かれた。「教材研究から指導案作成まで丁寧に指導していただき感謝している」という意見と、「1度しか見てもらえず実習を迎えるにあたって少々不安が残った」という意見である。令和元年度から全教員で実習指導に当たっていくということを開始したため、教員間の指導の理解をすり合わせる機会が少なかったことが、学生がこのように感じた一因ではないかと感じている。この内容に関しては、次の指導にかかわった教員のアンケートにも表れている。

5. 実習指導にかかわった教員のアンケート

実習後教員に2つの項目でアンケートを行った。一つは「来年度幼稚園教育実習に関して以前の形（本学指導教員に指導をお願いする）と、今回の形（全教員による指導をお願いする）、そのほかの形で行ったほうが良いと感じているか」もう一つは「その他幼稚園教育実習 I の指導、実習、附属幼稚園との連絡会に関して思っていることを自由記述」である。

一つ目の項目に関しては以下の通りであった。

- ・学生を教員で分担して指導できるのは、学生一人一人に深い指導ができるのでとてもありがたかった。
- ・今回の形が良いと感じたが、自分が指導教員をしている学生で、自分が担当ではなかった学生から「とある先生は1回しか見てくれなかったので不安である。見てもらえませんか」という質問を受け、担当以外で数名チェックした。
- ・今年度は前後期併せて10数名の指導となったが、担当する人数や時期が分散したため、例年よりも細やかな指導ができた。
- ・一部の担当者に偏らず、大学全体として実習を支援する仕組みができていることが求められていることから、今回の全教員による指導そのものは良いと思う。あとは実質の問題と感じている。講義をあまり持たないコースのっ学生への指導徹底という点では難しさを感じることもあった。「実習担当教員に対するFD」も求められている時期なので、学科全教員を集めて「実習とは何であるか」ということをしっかりと時間をかけてやる必要性もあると感じている。
- ・自分の指導担任をしている学生が「担当の先生に1回見せたらもういいと言われたけど不安なので見てください」と来た際に確認したら、誤字脱字、内容の不備などたくさんあり、結局自分の指導教員の学生をほとんど指導した。自分自身も自分の指導担任をしている学生にはきちんとした内容で実習を迎えてほしいため、自分自身で確認したほうが安心である。

以上のような内容であった。概ね全教員による指導により、きめ細やかな指導ができたことに手ごたえを感じている様子がうかがえる。一方、先にも述べたが、初めての試みで、学生がどのようなことを求め、事前指導として何を学生に提供していくという点に関して、共通理解を図る時間があまりとれなかったことから、指導への差というものが現れ、それを比較した学生が、指導に係る時間が少なかったときに不安を感じる一因となったことが、教員の側にも見て取れた様子である。

二つ目の自由記述において、学生へ実習指導という観点からの部分を抜き出すと、以下のことが書かれていた。

・事前指導を分担したときに、学科の先生方が「指導案作成の指導」がどの程度できるか、というのは疑問に思う。例えば、大学にずっといらっちゃって、指導案を書いたことがなく、教科教育や指導法が専門ではない先生方が、どの程度まで指導してくださっているのか疑問を感じる。実習担当者が、「こんな感じで添削を」という資料を出してくださいました。先述したような先生方がどの程度まで読み取ることができたのでしょうか。そこで、あの資料を基にして「指導案とはこういうものですよ。ここにはこういうことを書いて、こっちにはこういうことを書くんですよ」ということを共通理解する場が必要なのではないかと思えます。指導される側の学生が平等に指導を受けられるとよいのだがという思いがあります。

・教員に届いた実習ノートを見て、附属幼稚園でどのような指導を受けているのかを知ることのできる良い機会となった。

・幼稚園教育実習Ⅰと同じ学生を継続的に指導するわけではないようなので、学生への実習成績の告知や、実習ノート等の返却は今回のように実習の指導教員を介す必要性をあまり感じなかった。

6. 今後に向けて

養成校においては、どのようにその教員がキャリアを重ねてきたか、実習指導にどの程度関わってきたかということと指導の内容に差が生じるのは仕方のないこととを感じる一面もある。しかし、特定の教員が実習指導に関わるのではなく、学科全体でという近年の流れ、また、少人数教育が叫ばれる中では、その差についてFDを通じて培っていく必要がある³⁾。また、当たり前かもしれないが、養成校として、どのような学生を社会へ出していくという3P (AP: アドミッションポリシー、CP: カリキュラムポリシー、DP: ディプロマポリシー) を含めた確固たる信念のもと、カリキュラムの系統性、実習に関しても各実習担当者がそれぞれ考えるのではなく、段階的に学生を育てていく見通しをもって、指導に当たっていく必要があると

感じる。

学生がそれぞれの実習において何を学び、何を課題として持ち帰ってきているのかを、今一度しっかりと見定め学生の学びの質をどのように高めていくのが課題である。

謝辞

幼稚園教育実習Ⅰを行うにあたり、実習先としてご協力いただいた附属幼稚園の園長、主任、ならびに教員の皆様に感謝申し上げます。

引用文献

- 1) 鹿児島女子短期大学編「教育実習の手引き」pp17-34 (2019)
- 2) 増井啓子 アンケートから見える教育実習指導の七尾と課題—実習事前指導・実習・実習事後指導を通して—奈良佐保短期大学研究紀要特別号 pp87-101 平成30.2 2018
- 3) 文部科学省教職課程質保証のためのガイドライン検討会議 (第1回) 会議資料 資料3 教職課程の質保証に関する基礎資料 https://www.mext.go.jp/kaigisiryō/content/20201124-mxt_kyōkujinzai02-000011192_03.pdf (2020年11月24日)

(2020年12月25日 受理)

表2 令和元年度 幼稚園教育実習 I 指導日程

表2 令和元年度 幼稚園教育実習 I 指導日程

	9月		10月		11月		12月	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
1	日		火		金		日	
2	月	幼稚園始業式?	水		土		月	
3	火		木		日	文化の日	火	
4	水		金		月	振替休日	水	
5	木		土		火		木	
6	金		日		水		金	
7	土		月	幼稚園運動会	木		土	
8	日		火		金		日	
9	月		水	実習担当者×切	土		月	
10	火		木	オリエンⅡ(附幼)	日		火	
11	水		金		月		水	
12	木		土		火		木	
13	金		日		水		金	
14	土		月		木		土	
15	日		火		金		日	
16	月	敬老の日	水		土		月	
17	火		木		日		火	
18	水		金		月		水	
19	木		土		火		木	
20	金		日	短大事前指導Ⅰ・Ⅱ	水		金	
21	土		月		木		土	
22	日		火		金		日	
23	月	秋分の日	水		土		月	
24	火	短大講義開始	木		日		火	
25	水		金		月		水	
26	木		土		火		木	
27	金		日		水		金	
28	土		月		木		土	
29	日		火		金		日	
30	月		水		土		月	
31	火		木		日		火	

後期実習

指導案作成指導②

前期実習

教材研究指導

教材研究指導

指導案作成指導①

短大事前指導Ⅰ・Ⅱ

秋分の日
短大講義開始

オリエンⅠ(附幼)

幼稚園運動会

絵画製作指導
祭前夜祭
紫苑祭
大振替休日

実習担当者×切

実習担当者×切

実習Ⅰ事後指導
実習担当者×切

実習担当者×切

実習Ⅰ事後指導
実習担当者×切

実習Ⅰ事後指導
実習担当者×切

実習Ⅰ事後指導

天皇誕生日

担当

研究保育

研究保育

研究保育

研究保育

研究保育

研究保育

研究保育

研究保育

表 4 令和元年度 幼稚園教育実習 I 終了後の振り返り結果

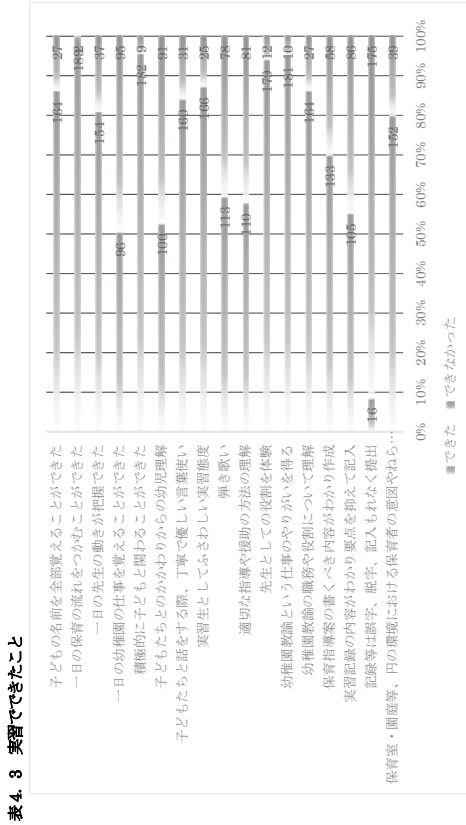


表 4. 3 実習でできたこと

表 4. 1 実習中に幼稚園担任や園長先生から指導を受けた内容について (複数回答)

項目	回答数	回答数/191名
援助・言葉かけ	158	82.7%
部分保育 (手遊びや、歌や指差、絵本読み聞かせ等)	88	46.1%
築地構成	87	45.5%
ねらいの設定について	36	20.4%
子どもとの関わりについて	95	49.7%
紙字腕字	45	23.6%
お膳や片付けについて	60	31.4%
教職員間の連絡や報告について	14	7.3%
その他	11	5.8%

※その他について、園の特色について、観察時の姿勢、全体把握、子どもの安全面について、社会人としての心構え、指導案の内容、体調管理について、日誌の環境構成の記入の仕方、活動の導入の大切さ、底層向き (背中への向き)、全体で集合するときは5分前に集まること

表 4. 2 実習終了時に最も達成されなかった課題 (複数回答)

項目	回答数	回答数/191名
生活習慣の指導	15	7.9%
言葉かけがうまくいかない	73	38.2%
発達等保育専門知識	39	20.4%
内面を理解した援助	60	31.4%
遊びの援助 (自由遊びの中の援助)	23	12.0%
トラブル場面での指導	90	47.1%
全体を見ることができない	90	47.1%
記録等作成・指導案訂正に時間が少かる	44	23.0%
記録等の内容が深まらない	21	11.0%
記録等の項目の具体的な書き方がわからない	9	4.7%
手遊びのレパートリーが少ない	98	51.3%
絵本読み聞かせ等保育技術	16	8.4%
保育者とのかわり	4	2.1%
その他	7	3.7%

※その他について、導入の際のルールや約束、反省会での考察が言えない、教材研究・幼児に対する言葉遣い、次の活動を考えた保育・担当保育者の準備

子どもの名前を全部覚えることができた
 一日の保育の流れをつかむことができた
 一日の先生の動きが把握できた
 一日の幼稚園の仕事が把握できた
 積極的に子どもと関わることができた
 子どもたちと語りあひたりひの幼児理解
 子どもたちと話をする際、丁寧で優しい言葉使い
 子どもたちと話をしながらふさふささわさわしい実習態度
 実習生としてふさふささわさわしい実習態度
 適切な指導や援助の方法の理解
 先生としての役割を体験
 幼稚園教諭という仕事のやりがいを得る
 幼稚園教諭の職務や役割について理解
 保育指導案の書くべき内容がわかり作成
 実習記録の内容がわかり要点を押さえて記入
 記録等は紙字、腕字、記入もれなく提出
 保育室・園庭等、目の環境における保育者の意図やねらい

子どもの名前を全部覚えることができた
 一日の保育の流れをつかむことができた
 一日の先生の動きが把握できた
 一日の幼稚園の仕事が把握できた
 積極的に子どもと関わることができた
 子どもたちと語りあひたりひの幼児について理解できた
 子どもたちと話をする際、丁寧で優しい言葉使いに気がつけることができた
 実習生としてふさふささわさわしい実習態度ができた
 弾き歌い
 適切な指導や援助の方法が理解できた
 先生としての役割を体験することができた
 幼稚園教諭という仕事のやりがいを得ることができた
 幼稚園教諭の職務や役割について理解が深めることができた
 保育指導案の「幼児の姿」「ねらい」「活動について」「本時の展開 (環境構成)」「予想される幼児の活動」「教師の援助」などの書くべき内容が分かり作成することができた
 実習記録の「環境構成」「実習項目」などの書くべき内容が分かり要点を押さえて記入することができた
 記録等は紙字、腕字、記入もれなく提出できた
 保育室・園庭等目の環境における保育者の意図やねらいを理解できた

表 4. 4 今回の実習でうれしかったこと

- ・先生方が自分の保育をよく見て、褒めて下さったこと
(先生方がどのような言葉掛けで褒めてくれたかを具体的に書いている学生が多かったです)
- ・目詰での教師の返事
- ・幼児が自分の名前を覚えて「〇〇先生」と呼んでくれたこと
- ・担当保育を楽しいと言ってくれたこと
- ・自分の担当保育を幼児が発展させて遊んでくれたこと
- ・幼児が遊びに積極的になってくれたこと
- ・最後の集団リズムで花道を作ってくれたこと
- ・メンバーに恵まれたと思う瞬間が多かったこと
- ・幼児と関わるのが好きだということを再認識したこと

表 4. 5 今回の実習で難しいと感じたこと

- ・全体把握の仕方
- ・幼児に分かりやすく説明し、理解してもらう為の言葉の選択説明の仕方
- ・時間配分と、配慮する幼児の援助、言葉掛け
- ・幼児同士がトラブルになったときの言葉掛け
- ・記録の書き方
- ・観察で見ているにも実際に自分がするとなるときに思ったようにできない難しさ
- ・言葉力のなさ
- ・ピア/マテレヒ習熟の導入が難しかった
- ・教師の位置や環境構成が特に難しかった
- ・時間の逆算